



生物多様性の保全

基本的な考え方

三機工業グループは、生物多様性が持続可能な社会にとって重要な基盤であることを認識し、生物多様性の保全に努めることによって、自然と人間が調和しながら共存できる自然共生社会の実現を目指しています。

生物多様性の保全
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/biodiversity/>

植樹・育樹活動

三機工業グループでは、2010年度から「SANKI YOUエコ貢献ポイント」制度を通じた環境保全活動として植樹・育樹支援を実施しています。加えて、2015年の創立90周年記念事業では山梨県甲斐市に「三機の森」づくり、2020年の同制度10周年記念事業では「感謝の森」づくりを行っています。その土地の植生の多様性を活かした森づくりや豊かな海の恵みにつながる植樹活動などへの支援や、従業員参加のボランティア活動など、環境保全活動に取り組んでいます。

2024年度は、「SANKI YOUエコ貢献ポイント」制度を通じた環境保全活動への支援として、8団体7プロジェクトに支援を行いました。加えて、各支援先での植樹・育樹のボランティア活動に、当社グループ役員、従業員とその家族のべ123名が参加しました。

2025年5月には、創立100周年を機に「三機の森」「感謝の森」を新生「三機の森」として再整備し、当社グループ役員・従業員の約100名で植樹イベントを開催して苗木約300本を植樹しました。今後も、従業員参加の植樹活動など地域交流を通じ、森づくりとともに地域に寄り添った活動を進めていきます。



「三機の森」植樹イベント

従業員の環境保全活動への参加状況、植樹プロジェクトの支援実績
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/biodiversity/>

生物多様性に関する取り組み

当社グループは、従来から取り組んでいる植樹・育樹活動に加え、環境省が主導する「生物多様性のための30by30アライアンス^{※1}」に参画し、自然共生サイト^{※2}への支援を実施しています。三機テクノセンター内で地域住民に開放している「三機環境園」や植樹育樹支援先の「めぐりの森」「SANKI YOUの森 くまもと山都」の3カ所が自然共生サイトに登録されています。

加えて、海の生態系を保全するサンゴプロジェクトへの支援も行っています。サンゴ礁は、気候変動等の影響により絶滅の危機に瀕しており、同プロジェクトでは、沖縄県をはじめとする世界中の海でサンゴの植え付けと育成を目指しています。

また、2024年度より新たに、愛知県知多市の天然記念物に指定されている「佐布里梅」の保全活動への支援を開始しました。引き続き、さまざまな活動を通して、さらなる環境保全に貢献していきます。



沖縄科学技術大学
大学(OIST)
サンゴプロジェクト

※1 生物多様性のための30by30アライアンス：2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させるために、陸と海の30%を健全な生態系として効果的に保全する目標

※2 自然共生サイト：国が認定する「民間の取り組みによって生物多様性の保全が図られている区域」

三機工業グループ 行動規範・行動指針
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/governance/conduct-code/>

生物多様性に関する 外部イニシアチブへの参画



経団連
生物多様性宣言
イニシアチブ



環境省
生物多様性のため
の30by30
アライアンス

地球環境の未来を見つめるプロジェクト

南極観測事業に 人と技術で貢献



三機工業は、南極・昭和基地が建設された1957年に、資材納入用のローラコンベヤ30台を納入して以来、南極域での環境変動と地球環境システムの解明を目的とした国家事業「南極地域観測事業」に関わり続けています。

当社は1991年の第33次越冬隊には、国立極地研究所の要請で南極地域観測隊越冬隊員として初めて人員を送り出しました。また、1999年には、昭和基地において初となる汚水処理装置の導入に貢献し、運用開始に至るまでの工程を当社出身の隊員が手がけました。以降、継続的に技術者を派遣し、昭和基地内での環境保全業務（排水・廃棄物処理施設）や機械設備（空調・衛生設備）の維持管理業務を行っているほか、汚水処理施設の更新や基本観測棟の設備構築にも携わってきました。

2024年2月、当社の南極観測事業への長年の貢献が認められ、「国立極地研究所南極観測パートナー企業」に選ばれました。2025年にも継続認定され、今後も南極での研究活動と環境保全に重要な役割を果たしていきます。



昭和基地のゼロエミッション実現に向け、共同研究に参画



R&Dセンター 主席研究員
柴田 一栄

2023年8月より、ICTを活用した昭和基地のエネルギー利用データに関する共同研究を国立極地研究所と開始しました。本研究は「昭和基地利用プログラム^{※1}」の一環として取り組むもので、昭和基地におけるゼロエミッション達成を目的に、クラウド型のエネルギー・マネジメントシステムを構築することで、まずはエネルギー収支の適時把握・最適化を図ろうという計画です。

現在、昭和基地では、越冬隊員の協力のもと暖房や給水・給湯の利用実態を把握するためのセンサー・電力の供給・需要調査を進めており、国内では居住環境の計測を遠隔にて常時監視・リアルタイムに評価できるクラウド型BEMS^{※2}を活用し、基地のデータ収集と解析方法の検証を行っています。今後はセンサー類の追加と見える化システムの構築を進めていく予定であり、将来の基地建設や居住棟の更新に活用する計画です。

本研究で得られるデータは、離島や孤立集落におけるエネルギー需給計画の策定において、貴重な基礎資料として活用されることが期待されます。さらに、本研究で構築するデータ収集システムは、将来的に昭和基地全体の設備運営情報を統合管理する包括的なデータプラットフォームへと発展する可能性を秘めており、基地運営の効率化と最適化に大きく貢献することが見込まれます。

※1 将来の南極観測を支える新たな技術開発や極限環境へも適用可能な新技術の開発等への積極的な支援を目的として、南極・昭和基地等のプラットホームを民間事業者の研究開発のために開放するプログラム
※2 BEMS (Building Energy Management System)：ビルエネルギー管理システム